

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎗木町 198-3
電話 (043) 485-1801

口を慎まない高齢者----- 斎藤たかし ダジャレで生き生き人生----- 矢口 孝
古代ロマン----- 若佐 秀雄 私の趣味----- 酒井 晴美

平成の時代って？

北山 仁志

5月に入り、令和の時代がスタートした。一昨年の天皇の退位のお言葉により、30年間の平成時代が幕を閉じたが、ここでは平成がどんな時代であったかを私なりに思い返してみたい。

まず、平成の開始を告げる小淵長官のあの有名な会見シンを見したのは、佐倉に建てた家の見学に訪れた現地事務所でのテレビであった。平成元年佐倉での生活を40歳で始め、今年で71歳を迎えた私にとって平成は私の人生のピクを過ぎた時間であった。平成元年、日本の経済はバブルと呼ばれる加熱状況を呈し、株価は市場最高値を記録したが、その後は長期のデフレ不況に見舞われ、企業倒産が相次ぐ時代に入っていく。私が身を置いた重工業の業界でも、造船不況や鉄鋼不況に見舞われ、第二次産業

は長期低落傾向が続いた。戦後の高度経済成長長期に、日本のGDPを世界第2位に押し上げる原動力となった産業も、商業やサービス業といった第三次産業には及ばなくなっていた。

平成の時代を特徴付けるもう一つは、災害の多さである。雲仙普賢岳の噴火に始まる天災は、北海道南西沖地震、阪神淡路大震災、新潟県中越地震、三宅島の噴火、東日本大震災、熊本地震と、切れ目なく頻発した。加えて、集中豪雨と河川の氾濫は毎年の如く発生し、多くの市民が被災した。

一方、人災と呼ぶべき事件も多発した。オウム真理教関連事件、JR福知山線脱線事故、福島原発メルトダウン事故、笹子トンネル崩落事故等である。

こうして見ると、災害と共

生した平成であったと云え、その度に被災地を見舞われる両陛下の姿を国民は見つめて来た。

国政の世界でも平成の時代には大きな変化があった。平成5年、総選挙で惨敗した自民党に代わり細川連立政権が生まれ、今日の政治劣化の元凶とされる小選挙区比例代表制が成立する。この後も与野党の離合集散が繰り返えされるが、小泉内閣の時代は比較的安定した保守政権を保ったものの、麻生内閣の選挙で自民惨敗の結果、民主、社民、国民新党の連立政権として鳩山内閣が誕生した。鳩山、菅野田と続く民主党政治は国政を担い得る力量が無いことを露呈する結果だけを残して、自民党の長期政権を生み出す素地を作った。

こうして激変の平成は終わったが、次の令和の時代が多くの課題を乗り越えつつも、薫り高い文化国家として発展していくことを祈りたい。

(編集委員)

口を慎まない高齢者

某生涯大学講座で本講座の前に、各班別に分かれた「グループによる討議」があった。

私の所属している班で高齢の女性から「近々行われるバス旅行の目的地が、希望に沿って決められていない」とえらい剣幕で苦言が出た。

それは役員・幹事の責任ですと、言い張って収まらなかった。こちらから言葉を返す余裕も何もない。頭から否定され悪者にされた。

自分ばかりではなく周囲の雰囲気も悪いまま終わった。

私は帰宅してから、その講座の最初からの資料を振り返り読みなおしたら、年度始めに旅行のアンケート調査の結果で決めている事を確認した。受講者の皆さん大半が了承しているから決行されるのであって、私の方がストレスがたまってしまった。後から説明しても、またその女性に言

い聞かせても、逆にお互いに不愉快になると思い、私はそのような人間にならないよう、反面教師と心得て自らが、そろそろ役の引き際「潮時」が近づいた、と察した。

当の旅行中は、その女性とは対話を控え無難に済み、2台のバスに分乗した日帰りの団体旅行は無事に終わった。

男性の平均寿命は80歳を越えている。良い事が多いが時として雑念が入る公的な役から離れ、自由気ままに過ごしたい。

今回の事をポジティブに考え「気は長く心は丸く腹立てず」のように楽しく過ごしたい。

もう一つ、私は様々な団体でお付き合いをしているが、とかく高齢になると他人の話が終わらぬうちに横取りする人が少なくない。主張は分かるが避けたいものである。

(石川 斎藤 たかし)

ダジャレで

生き生き人生

ある新聞に、脚本家ジェームス三木の記事が載っていた。

「韓国語でサンドイッチは何というか知ってるか」と彼は聞く。答えに窮している。「正解はパンニハムヲハサムニダ」。「では次。都内の路線で音程が狂う駅はどこか」「：？」彼はドレミファソラシドと歌い、最後の「ド」を高く外した。つまり「高井戸」だ。ついでに「シ」も外して「下高井戸」。最後に、コップの前にストローを置いて「マエストロ」と胸を張った。

作曲家の池辺晋一郎君は言葉遊びが好きで私でもかなわないダジャレキングで、NHK連続テレビ小説「濡つくし」や大河ドラマ「独眼竜正宗」などで一緒に仕事をして以来の付き合い。講演会に呼ばれて登壇する際には「正宗」のテーマ曲が流れる。私の代名詞ともいえる曲を作ってくれ

た池辺君と会えば、今は互いに「弔辞を読んであげますよ」と言い合う仲だ。

ダジャレ合戦では池辺君にかなわないが、負けなれないと思えるものが一つある。脚本家になる前、歌手として10年程活動した。芸名をどうするか考えあぐねているところに、大先輩のディック・ミネさんが現れた。ディックさんに付けてもらえないかとお願いますと、彼は慌てて「これから税務署に行くんだ」と言う。「税務署行き」から「ジェームス三木」が生まれた。さすがの池辺君も、こればかりは真似できまい。

ダジャレは、ある程度仲の良い関係でないと言えないし、通じない。認知症の人が言うダジャレは、シヤレではなく、本心だという話を聞いた事がある。どちらにしても、カレツジでもダジャレが言えるように、頑張ってみようと考えている。

(井野 矢口 孝)

古代ロマン

少し前のこと、福岡市内の古墳で年代が判明した象嵌太刀（とうち）が見つかったとの発表がありました。

太刀に刻まれた「大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀凡十二果口（最後の文字は未判別）」の十九文字をX線検査で見つけたと云うのです。文字資料が極めて少ない古墳時代の銘文資料は非常に稀で、文字列から年代が西暦五七〇年と特定されたそうです。六世紀の古墳時代に日本人が独自の技術で刀剣の鑄造・鍛造をしてきた事実は興味深いことです。さらに驚くことは、これが古墳時代から飛鳥時代を経て八世紀の奈良時代に至り、奈良の大仏の鑄造に繋がることです。大陸からの渡来人に学びながらもご先祖の日本人は鑄造・鍛造技術の進歩を図り、この分野において世界で冠たる技術を保有していたのでは

ないかと想像が膨らみます。何故なら、奈良の大仏のような大型ブロンズ像の鑄造例は当時の世界中のどこにも見当たらないからです。この時代にギネスブックがあれば間違いないと載っていたことでしょう。

高さ約十六呎の巨大銅像を奈良時代に世界に先駆けて造り上げた精錬・鑄造技術は、大変素晴らしいと思います。日本人の技術の誇りです。八世紀と云えば、中国は唐の玄宗皇帝と楊貴妃の時代、ヨーロッパでは東ローマ帝国の最盛期の戦国時代です。このよ

うな時代に我々のご先祖達は世界に先駆けて大仏建立をやったのけたのです。ご先祖様バンザイ。古代日本のロマンです。歴史は巡って現代の日本人にはこのような技術革新のDNAが連綿と受継がれていくに違いありません。これを誇りに思うのは私だけではないはずです。

（南ユーカーが丘若佐秀雄）

私の趣味

私の今の趣味は、こうして文章を書くことと、今カルチャーセンターで、習いはじめた編物と布クラフト（パッチワーク、バッグづくり等）です。とても楽しく、面白いです。生徒は、だいたい60代〜70代の主婦です。

布クラフトの先生がとてもよい先生です。クラフト作家で50代の女の先生ですが、人柄もよく、わかるまで教えてくれます。

伊能忠敬も年下の人に、教わったそうですが、私も年下でも尊敬できる人に出会えました。編物も、パッチワークも困難なところもありますが、なんとかがんばっていい作品をつくりたい。セーターなどもそうですが、シニアの人達が持つ和風のバッグをつくりたいと、夢は大きく広がります。

それに、これは健康法にも

通じますが、編物をするようになってから、がんこだった便秘がすっかりなおり、筋力もついたようで、前より歩けるようになりました。編物はすわってやる手仕事ですが、体全体を使う、カロリーを消費する運動なのです。現代は、歩くことプラス手仕事で、健康が保たれるのではないでしょう

うか。

「佐倉地方の民話」によれば、昔、佐倉には、おキクさんという全盲の女性がいて、縫物も編物もできたそうです。結婚していて子供もいたそうです。「人間は努力すれば、何でもできる」と言っていたそうです。尊敬します。

私もおキクさんを見習って、がんばります。男性の方もやってみたら、いかがでしょうか。男性の手芸家も多いし、とにかく根気とがんばりが大切です。根気なら負けません。

（石川 酒井 晴美）

6月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「趣味」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鏑木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集を行っています。

わくわく道

3月末に、佐倉自然同好会が開催した「里山の春、吉見・羽鳥自然観察会」に参加した。

染井野の住宅地を抜け住吉神社前の細道を入って行くと、道端に蕾をつけたニリンソウが群生していた。田起こし前の田んぼには一面タネツケバナが咲き、それが肥料になるといふ。甲賀神社の裏手にはウラシマソウ、ジュウニヒトエ、タチツボスミレが咲き、

ウラシマソウは性転換するとの説明に参加者から驚きの声が上がった。そして小川にはシジミが生息していた。

住宅地の近くにこんな自然豊かな風景が広がっていると。案内がなければわからず、車で通り過ぎるだけでは気がつくはずもない。

緑が美しい6月、この里山ではどんな自然が見られるのだろうか。また歩いてみたいと思う。

(池田 孝子)

あとがき

「令和」の時代が初まった。万葉集に謳われる「初春の令月にして、気淑く風和ぎ」に典拠がある。国文学者中西氏は言う。加えて、「和」は十七条の憲法、平和憲法にも通じ、「令」の意味する「善き」を組み合わせることのできる「麗しき和」となるらしい。この様に説明を受けると、実に良い命名だと感心してしまう。同時に日本語文化の深遠さを感じざるを得ない。

さて、歌手のロザンナが昨年帰化したらしい。喋りはこなせ

るが読み書きは不得手とのことだ。あるラジオ番組で「同じ漢字に音読みと訓読みで何、理解できない。日本語って難しい」と語っていた。

編集校正作業をやっている多くの投稿者の日本語に触れる。難解な文章もあれば平易な言葉で書かれたものもある。

日本語の奥深さを感じながら、投稿者の意図を汲み読者にその意図を正しく伝えるための作業であると肝に銘じ取り組んでいきたいものである。

(前田 幸博)